

シリーズ3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑩

職藝学院

クリスマスローズ (ガーデン・ハイブリッド)

教授 渡邊美保子

冬の宿根草は、カラカラと音をたてて風に運ばれてきた落ち葉の布団に守られて過ごします。枯れた茎や葉ばかりになって誰からも見てもらえなくなった庭は、いつしか空から舞い降りてきた雪に綿帽子をかぶせてもらってすべてを隠してもらいます。こうして富山の宿根草は、雪の下で長い眠りにつくのです。こうなると、土を掘り返すことも、花を植えることもできません。指先が凍えるようになる頃には、もう何もなくてよいのですと教えてくれます。安心してほんのつかの間、寒さを合図につぼみを膨らませ始めている宿根草があります。冬に咲く花、クリスマスローズです (写真1)。



写真1：落葉樹の森の南側林縁を好むクリスマスローズ (ガーデン・ハイブリッド)。3月下旬。

クリスマスローズは、キンポウゲ科の寒さに強い丈夫な宿根草です。流通しているクリスマスローズは、交配種でガーデン・ハイブリッドと呼ばれています。花は2月頃から咲き始め、4月頃まで楽しめます。12月、地面を割って出てくるつぼみは (写真2)、雪解けとともに花茎を伸ばしはじめます。花は、クリーム色、赤紫、黒紫、花びらに斑点の入ったもの、フリルのあるもの、八重咲きなど、イギリスの熱狂的な育種家により、さまざまな色や花びらを持つクリスマスローズが作り出されてきました。



写真2：地際から顔を出したつぼみ。常緑の葉の葉柄は地面に倒れてくる。12月中旬。

この花の最大の特徴は、そう簡単に花の顔を見ることができないことかもしれません。なぜなら、花はまるで地面とおしゃべりをしているように、うつむき加減に咲くためです (写真3)。花の顔を眺めるには、ある作法が必要になります。まず、膝を折り曲げ、うずくまり、団子虫になったようなつもりで出来る限り小さく縮こまります。草丈が40cmほどですから、このときほど小人だったらと思うほどです。それから右手の人差し指だけを伸ばし残りの指はすべて折り曲げ、花の付け根のあたりに人差し指をそっと差し伸べ、ゆっくりと持ち上げます。この手順をふんで、ようやく花の顔を見ることが出来ます。立ったまま花を見ようなんてもったいないことはやめましょう。園芸種のクリスマスローズには、今まで見たこともない花を作り出そうと夢を追いつけている育種家たちの物語がこめられているからです。

庭植えの場合は、落葉樹の木の下の東南側に植えることをおすすめします。落葉樹は、秋から早春にかけては葉っぱがないので、明るい日差しがクリスマスローズを暖めて花を咲かせてくれます。一方、花が終わり種を結ぶ5月頃には、落葉樹の葉が生い茂り、クリスマスローズを夏の暑い日差しから守ってくれます。水はけの良い肥沃な土を好みますので、植え付け前に完熟堆肥や腐葉土などをすきこみます。クリスマスローズの苗を購入する場合は、花茎がたくさん立ち上がっている大株を購入するとよいでしょう。花が咲き始める頃、前の年に伸びた葉が倒れて見苦しくなりますが、地際から切りとっても大丈夫です。新しい黄緑色のつややかな葉が再び地面から伸びてくるからです。組み合わせのポイントは、クリスマスローズの周りにレモン色のミニスイセンや、ビオラを植えると明るく華やかになります。



写真3：新しい黄緑色の葉が伸びた頃、前年の葉は枯れてゆく。4月中旬。